

2021年12月期 決算説明会(2022年2月22日開催)

プレゼンテーション 書き起こし

東洋インキ SC ホールディングス株式会社

証券コード 4634

説明者: 東洋インキ SC ホールディングス株式会社 代表取締役社長 高島悟

資料: https://schd.toyoinkgroup.com/ja/ir/archives/pdflib/2021/frp_fy2021_q4_ja.pdf

高島: あらためまして、社長の高島です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

今日の当社決算説明会は前回と同様、ウェブを通じてのオンライン開催となりましたが、多くの方々にご視聴いただいているということで、誠にありがとうございます。

本日の私からの説明内容です。

TOYOINKSC
For a Vibrant World

東洋インキSCホールディングス株式会社
2022年2月18日

2021年12月期 (2021年度) 決算説明会

内容

- ◆ 連結業績概況
- ◆ 各セグメントの概況
- ◆ 中期経営計画SIC-II (2021-2023) の進捗
- ◆ 設備投資・株主還元
- ◆ ESGトピックス
- (ご参考) BS概況・PL概況
地域別・事業別セグメント業績
主な製品・用途

本資料中の計画、予想は2022年2月18日現在の認識・前提にたっており、これからの国際情勢、経済状況、事業環境に著しい変化があった場合には、実際の業績が記載と大きく異なる可能性があります。また、表記の金額は億円未満について四捨五入しております。

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

はじめに、昨年度の連結業績の概況をご説明します。その後、本年度の目標、重点課題、これを中計の内容を交えてご説明します。そして、設備投資・株主還元の方針、ESGトピックスという順序でご説明してまいります。

約半年前の8月の決算説明会においても申し上げましたが、この説明会、参加されているのは投資家の方、メディアの方が中心だと理解しておりますが、私自身がその皆さんに相對するにあたって重視したいことの一つは、適時に可能な範囲で開示していきたいという透明性の確保です。この姿勢については何ら変わることはありません。

これまでも個別のIRの対話をさせていただき、忌憚のないご意見やご要望を頂戴しており、心より感謝しております。今後とも皆様からのフィードバックをいただき、できる限り経営に生かしていきたいと考えておりますので、本日も忌憚のないご意見、ご指摘をいただければと思います。

2021年度連結業績と2022年度計画

(単位: 億円)

科目	2020年度実績	2021年度実績	増減率(%)	2021年度計画(修正後)	2022年度通期計画値
売上高	2,577	2,880	11.8	2,800	2,950
営業利益	129	130	0.7	145	145
経常利益	125	154	23.1	150	150
親会社株主に帰属する当期純利益	60	95	57.7	85	100
営業利益率	5.0%	4.5%	▲0.5points	5.2%	4.9%
海外売上高比率	46.4%	49.9%	+3.5points		

計画の前提となる指標と実績

		20年度平均	21年度平均	22年度前提				
為替	1 USD	¥106.4	¥110.4	¥115.0				
	1 EUR	¥122.0	¥130.3	¥130.0				
	1 RMB	¥15.4	¥17.1	¥18.0				
原料	ナフサ(/KL)	¥32,800	¥43,250	¥57,100	¥60,000			
	ロジン(/t)	\$1,551	\$2,727	\$2,666	\$2,500			

2021年12月期 決算説明会

1

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

はじめに、2021年度連結業績と22年度の計画です。

こちらの表にありますとおり、昨年度1-12月の連結売上高は2,879億8,900万円と、計画値ならびに前年を上回りました。営業利益は130億500万円と、前年は上回ったものの計画値には届きませんでした。経常利益は154億4,200万円、当期純利益は94億9,200万円と、どちらも前年および計画値を上回ることができました。

売上高については、為替の要因をその前の期に合わせますと、連結全体での売上高の増収はプラスの9.2%となります。ちなみに、海外売上高比率は、こちらの下に書かれておりますとおり、ほぼ50%と、半分近くになってきております。

営業利益についての、その前の期と比較しての増減分析は後ほどご説明しますが、端的に申し上げますと、原料高騰による影響を非常に大きく受けたと言えます。それから、経常利益、純利益に関して申し上げますと、プラス要因としてはその前の期の為替差損に対して前期は為替差益が発生し、前期と比べますと大幅な、26億6,700万円の増加となっています。

マイナス要因としては、国内の印刷インキ事業の構造改革、あるいは色材・機能材関連事業の生産効率化のため

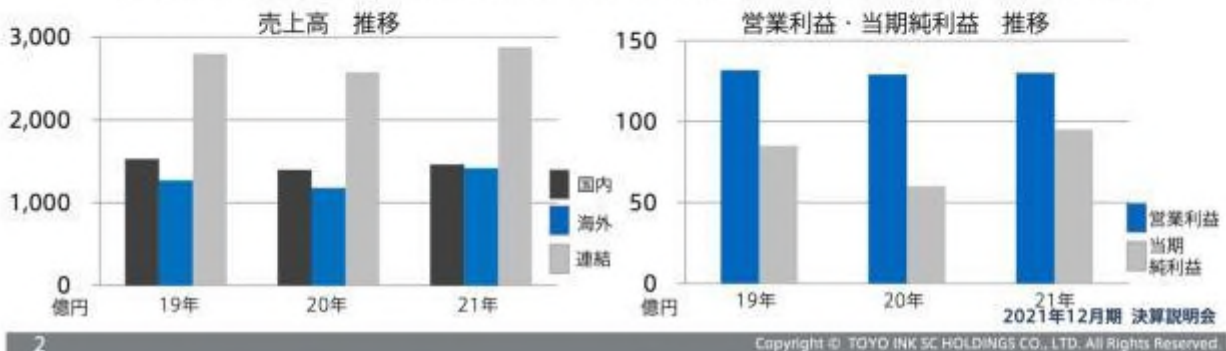
の生産統合による減損損失や、事業構造改善費用を計上しました。また、海外においても、ミャンマーでの事業の一時停止、また、その前の期に行いましたフィリピンとフランスでの事業整理損の残りを計上しております。そういったマイナスも踏まえて、結果としては増益となっています。2年前、それから昨年といろいろな構造改革、事業整理を行ってきており、大きな負の整理はここでほぼ終了したと、私自身は捉えています。

本年度の通期は、こちらの一番右端にありますとおり、売上高が 2,950 億、営業利益 145 億円、経常利益 150 億、親会社株主に帰属する当期純利益 100 億という目標値を公表しております。計画の前提となる指標と実績は、スライド 1 の下にあるとおりです。

2021年度 連結業績概況

■ 増収増益：営業利益は前年並も、売上は計画を上回る

- 売上：全セグメントにおいて前年を上回る、特に海外を中心に回復
 - ・ メディア材料/5G材料などエレクトロニクス関連材料が牽引
- 営業利益：原材料価格の急激な高騰の影響で前年並に留まる
 - ・ 「色材・機能材」「印刷・情報」は増益、「ポリマー・塗加工」「パッケージ」は減益
- 経常利益・当期純利益：計画、前年を上回る利益
 - ・ 前期の為替差損に対し、今期は為替差益が発生
 - ・ 国内外の事業構造改革など特別損失、保有資産の見直しなど特別利益を計上



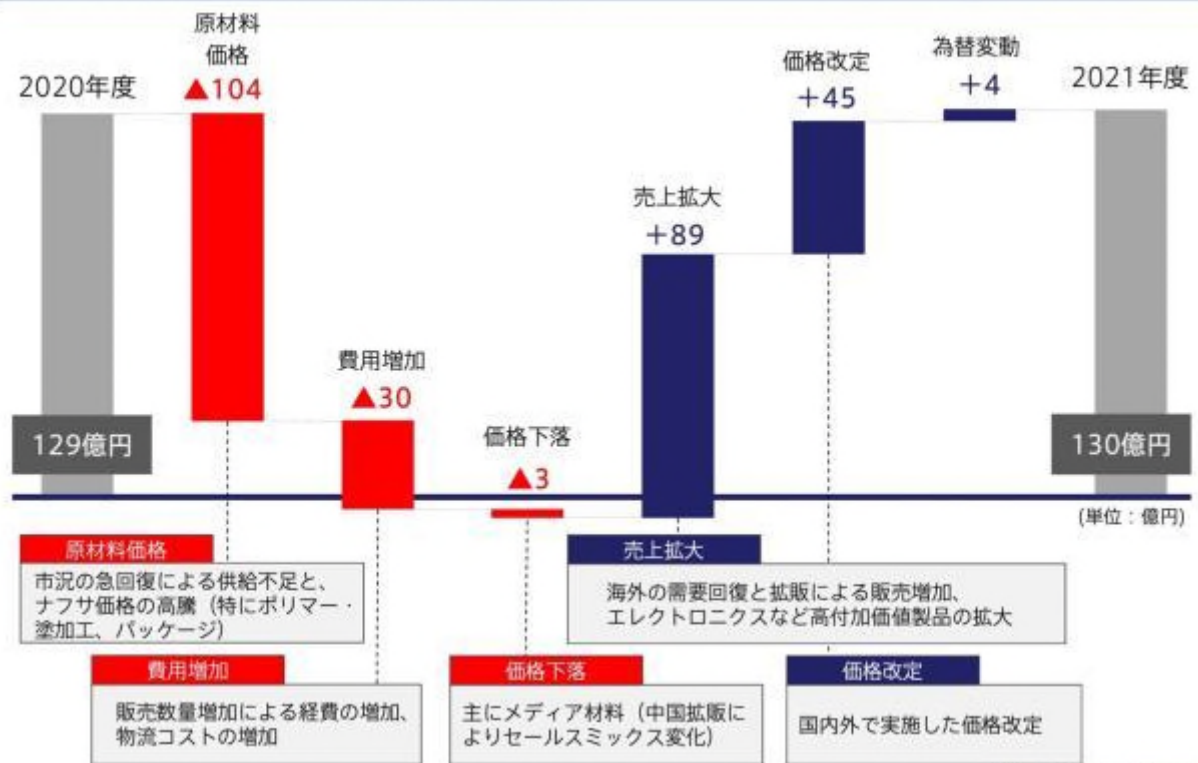
今、概略を申し上げましたように、全体としては、営業利益は前年並ですが、わずかな増益、売上は計画値を上回った状況です。

スライド 2 の下にあるグラフは、左に売上高の推移を 2019 年、2020 年、2021 年度と三つ並べてあります。黒が国内、ブルーが海外、グレーの色が連結の売上高です。右が営業利益、当期純利益を並べて、同じく 3 年間の推移を掲げています。

売上高については、先ほど申し上げましたとおり、海外が非常に好調だったこともあり、連結で 2020 年から比べ大きく伸びました。営業利益については前年並みですが、純利益については先ほど申し上げた理由で伸びております。

後ほどセグメント別で申し上げますが、一言で言うと先ほど申し上げましたとおり、原材料の高騰を大きく受けたのがポリマー・塗加工とパッケージという二つの事業で、大きな減益となりました。これについては後ほどご説明します。

2021年度 営業利益の増減要因分析



3

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次に、営業利益の増減要因のチャートになります。一番左が2020年度の営業利益、一番右が2021年度の営業利益です。

先ほど申し上げましたとおり、大きな影響を受けた原材料価格の連結での金額は104億の影響となっています。国内と海外で分けると、国内での高騰の影響が41億、海外での影響が63億です。半年前の8月に私がここで、原材料の高騰の影響は68億受けるだろうと申し上げましたが、その予想を大きく上回ってしまい104億の影響を受けたところです。

そのほか、費用の増加としまして、売上好調に伴う販売数量の増加による原料の増加、あるいは物流コストの増加といったものが30億ありました。

プラス要因としましては、売上拡大としてここに89億と書いてありますが、特に付加価値の高いエレクトロニクス分野を中心に付加価値製品の拡大が売上拡大に寄与し、営業利益を押し上げたところです。それから、価格改定については昨年度45億を達成したところで、国内が10億、海外が35億という達成になっております。この売上拡大の中身については、後ほどご説明します。

2021年度 事業セグメント別実績概況

- **色材・機能材**：メディア材料の好調と、着色剤の販売伸長により増収増益
- **ポリマー・塗加工**：高機能製品が伸長も、原材料高騰に価格改定が及ばず減益
- **パッケージ**：食品包装用が国内外で伸長したが、原材料高騰に価格改定が及ばず減益
- **印刷・情報**：機能性インキの伸長と海外の需要回復により収益改善

	2020年度 実績		2021年度 実績		増減率(%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
色材・機能材	650	23	750	54	15.3	138.6
ポリマー・塗加工	623	59	707	36	13.5	▲39.9
パッケージ	666	39	736	18	10.6	▲53.3
印刷・情報	622	6	667	17	7.2	189.4
その他・調整	15	2	19	5	-	-
連結	2,577	129	2,880	130	11.8	0.7

(単位：億円)

2021年12月期 決算説明会

4

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

これは、事業セグメント別実績の昨年度の概況です。ここでは全体感を見ていただくことになります。四つの事業セグメント全てで増収です。

利益に関して大きく影響を受けたのが、この表にありますとおり、ポリマー・塗加工事業とパッケージ事業です。ポリマー・塗加工で39.9%、パッケージに関しては53.3%の減益で、コストダウン、新製品の拡販あるいは価格の改定、これらの経営努力がここまで及ばなかったところになります。このセグメントごとの概況については、後ほど一つずつ説明してまいります。

原材料価格の動向と購買政策

原材料価格高騰の背景と見通し

- 経済活動の回復による各種原材料の需要急増
- 物流の乱れによる輸送費の高騰
- 原材料製造元の事故等による供給制限（広範囲の原料に影響が波及）
- 世界的な環境規制強化の継続による対策コスト増大

➢ 22年度も原材料価格の高止まり、厳しい状況が続く見通し

営業利益への影響（通期対前年）

原材料価格高騰の影響		価格改定の実績	
▲104億円（上期20億円、下期84億円）		45億円（上期7億円、下期38億円）	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ナフサ由来原料 ■ 有機溶剤 ■ 樹脂原料 ■ 顔料原料 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 酸化チタン ■ 容器（ドラム缶） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 粘着剤 ■ ラミネート接着剤 ■ 塗料・樹脂 ■ UVインキ ■ グラビアインキ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ フレキシインキ ■ オフセットインキ ■ スクリーンインキ ■ 顔料 ■ 着色剤
ほか		ほか	

➤➤➤ 22年度：適正価格への改定を進める

購買政策 製品の供給責任を優先した上で、SCM改善、原材料見直しを実施

2021年12月期 決算説明会

まずは、原材料高騰の動向について、これが一番、昨年われわれの利益を押し下げた要因ですので、もう少し分析します。

まず、原材料高騰の背景と見通しです。こちらはおそらく皆さんもご理解いただいているとおりで、釈迦に説法な部分がありますが、経済活動の回復による各種原材料の需要急増、物流の乱れによる輸送費の高騰、あるいは原料製造元のいろいろな事故等による供給制限がありました。

また、世界的な環境規制強化による対策コストの増大や、場合によっては操業停止のメーカーさんもあった中でわれわれの基本スタンスは、お客様への供給責任をなんとしても果たすことが最優先であるということであり、それはこれからは変わりません。

一時、例えば、溶剤等が逼迫し業界全体でも大きな騒動になりましたが、なんとか確保し供給をつなげてきております。これが実際に、先ほど申し上げましたとおり、104億の影響となってきており、特に下期で84億と、これは連結で海外国内合わせてですが、影響を受けております。価格の高騰は、原油を中心としたナフサ由来原料のみならず、いろいろな原料で起きております。

価格改定の実績は上期が7億円、下期は38億円であり、特に影響を受けた粘着剤、ラミネート接着剤、塗料樹脂、あるいはインキのUVインキ、グラビアインキ、フレキシインキでの価格改定を今も進めているところです。

ここで大切なのは原材料価格は、今後どうなるのか、どう見るのかだと思うのですが、現在、ウクライナ情勢等政治的にいろいろと不透明なところもあります。また、世界景気の回復も一般的に言われています。環境規制の強化は1年で終わる話ではなく、今後も継続されていく環境の変化の一つだと捉えています。こういったことを踏まえると、原材

料、エネルギーコスト、物流費用といったものは高止まり、もしくはさらに厳しい事業前提を置かざるを得ないと捉えて、われわれは本年度以降、事業運営をしていかなければいけないと考えています。

各セグメントの概況 (色材・機能材)

21年度重点施策

収益の柱の確立に向け攻めの布石を打つ

- 売上 メディア材料の好調、着色剤の海外販売伸長により増収
- 営業利益 メディア材料・着色剤・インクジェットの伸長、高機能製品シフトで増益

業績	20年度 業績	21年度 業績	増減率(%)
売上	650	750	15.3
営業利益	23	54	138.6

(億円)



四半期売上・営業利益率推移

売上増減	概況
メディア材料	+19% 中国・台湾でのレジスト・ペースト拡販により、売上・シェアが拡大
着色剤	+13% 海外で高利益の開発MBが実績化、国内は容器、キャップ用でシェアアップ
顔料	+11% オフセット用顔料の需要減少をデジタル印刷用、パッケージ用でカバー
インクジェット	+48% 中国・欧州を中心にグローバルでシェア拡大、新規生産設備稼働も奏功
機能性分散体	+55% LIB用材料は4極生産体制（欧米中日）構築に向け積極的に設備投資を実施

2021年12月期 決算説明会

もう少し、昨年度の業績について振り返らせてください。事業セグメント別にご説明します。まず色材・機能材セグメントです。

こちらは先ほど申し上げましたとおり、売上も利益も好調な事業セグメントでした。特にメディア関連材料では、中国での拡販あるいは競合メーカーの撤退等によるシェアの拡大、それから、コストダウンの効果といったものが大きく寄与しました。

着色剤につきましては、その前の期に行いましたフランスやフィリピンでの撤退効果がプラスの方向で出たこと、また、製品ミックスを大きく改変してきておりまして、高付加価値製品が大きく伸びてきているところが、売上と利益に寄与しております。

また、昨年よりインクジェット用インキをこちらのセグメントに移行しました。顔料を持つ強みを生かし、大きくこの分野で戦略的に対応していこうと、マーケットに対しても絞り込んで、フォーカスしてやっていこうとしておりまして、こちらが大きく伸びております。これについてはまた後ほど申し上げますが、グローバルでのシェア拡大あるいはそれに伴う新規設備の増設を急いでおりまして、その稼働も一部スタートしております。

昨年度の業績では、機能性分散体がプラス 55%となっていますが、分母が小さいのでこうなっています。こちらは今、本年度も含めて大きな投資をかけつつあるところとして、次のセグメントの大きな柱、セグメントというよりも会社全体の大きな柱にしていこうと、資源投入していこうとしている部分です。

各セグメントの概況 (ポリマー・塗加工)

21年度重点施策

環境調和型製品の拡大と5G市場への攻勢

- 売上 塗工材料は5Gやパネル用を中心に拡大、粘着剤・接着剤も国内外で伸長
- 営業利益 高機能製品は伸長も、全体としては原材料高騰に価格改定が及ばず減益

業績	20年度 業績	21年度 業績	増減率(%)
売上	623	707	13.5
営業利益	59	36	▲39.9

(億円)



	売上増減	概況
パッケージ・工業材料	+10%	食品包装やラベル用粘着剤は堅調、海外は環境調和型製品や工業用が拡大
エレクトロニクス	+27%	塗工材料が特に5G用で大きく伸長、パネル向けのコート剤も好調
メディカル・ヘルスケア	+6%	貼付業はコロナ禍で需要減少も、中国のヘルスケア用粘着剤は拡販が進む

2021年12月期 決算説明会

7

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次のポリマー・塗加工事業については、先ほど申し上げましたとおり、原料の影響は大きく受けたのですが、いろいろな新しい品種や、セグメントをさらに細分化したニッチのマーケットでのトップ製品がいくつか出てきておりまして、売上也好調に伸びてきています。

パッケージ・工業材料は、粘着剤やフィルム用のラミネート接着剤になります。こちらは食品包装やラベル用が堅調、また、海外に関しても環境調和型製品が拡大しました。

それから、エレクトロニクスの分野に関しても、スマホやパッド用の導電接着シートあるいは5Gに対応して設計しました電磁波シールドフィルムが好調に伸長しました。

ヘルスケアの分野では、特にヘルスケア用の粘着剤というセグメントにおいては、ドイツのメーカーをしのぐブランドを確立してきておりまして、大きく中国での拡販が進んでいます。

ここで一つ申し上げたいのは、この右上にある折れ線と棒グラフの表で、これはクォーター別で売上高と営業利益率がどう推移しているかを表しています。一応Q3をボトム、すなわち営業利益率がボトムとしまして、Q4で上がってきておりますが、これは値上げの効果とも言えると考えています。直近においても限界利益率の向上等が見られ、足元さらに原料の高騰はみられますが、価格改定をさらに強化していこうと考えています。

各セグメントの概況 (パッケージ)

21年度重点施策

環境対応ソリューションの推進

- 売上 食品包装用途は国内外で拡販、国内は環境対応品が好調
- 営業利益 国内外で拡販進んだが、原材料高騰に価格改定が及ばず減益

業績	20年度 業績	21年度 業績	増減率(%)
売上	666	736	10.6
営業利益	39	18	▲53.3

(億円)



	売上増減	概況
国内リキッド インキ	+8%	食品軟包装用や詰め替えパウチ用など堅調 バイオマスインキなど環境対応製品が伸長
海外リキッド インキ	+14%	昨年度落ち込んだ中国・東南アジアも大きく回復 韓国・インド・台湾で軟包装用水性インキが伸長

2021年12月期 決算説明会

8

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次はパッケージセグメントの概況です。

こちらは増収、大きな減益となりましたが、国内においては食品包装用途、特に環境対応製品での拡販が進み好調でした。バイオマスインキなどの環境対応製品も伸長しました。海外においては、その前の年に落ち込んだ中国や東南アジアで販売が回復してきております。また、今増設をかけておりますインドでの拡販も順調に進んでおり、何期かに設備投資を分けてやっていますが、前倒しで実施していくことを検討しております。

こちら、先ほどのポリマー・塗加工と同様に、昨年の Q3 から Q4 にかけて営業利益率が改善の方向に向かってきており、適正価格への価格改定の効果と捉えています。今後も適正価格への修正をお客様に説明していく活動を進めてまいります。

各セグメントの概況 (印刷・情報)

21年度重点施策

収益事業化への変革加速

- 売上 パッケージ向け機能性インキは国内外で伸長、海外の需要が回復基調
- 営業利益 機能性インキの伸長と構造改革の推進により収益体質が改善

業績	20年度 業績	21年度 業績	増減率(%)
売上	622	667	7.2
営業利益	6	17	189.4

(億円)



	売上増減	概況
オフセット インキ (一般インキ)	+7%	海外需要はコロナ禍から回復基調、国内市場縮小は加速 生産アライアンスなど構造改革を推進
機能性インキ※	+13%	バイオマスインキなど環境対応製品が国内外で伸長 パッケージ向け市場への拡販

※機能性インキ：UVインキ、金属インキ、スクリーンインキ

2021年12月期 決算説明会

それから、印刷・情報セグメントについては、一言で言いますと、収益事業化への変革を加速しているところです。縮小する国内需要に対応した構造改革は継続して推進しており、収益体質は確実に上がってきております。こちらの営業利益率の折れ線をご覧のとおり、ここは一目瞭然だと思います。

この事業セグメントの成長戦略は、海外でもまだ伸びるところには注力していくということと、もう一つは機能性インキとわれわれの社内と呼んでいる、UV インキ、金属インキあるいはスクリーンインキをパッケージやエレクトロニクス、いろいろな分野に対して開発し拡販していくことです。

2022年度 事業セグメント別計画

- **色材・機能材**：成長市場において収益の柱の確立を加速
- **ポリマー・塗加工**：グローバルNO.1 製品群の拡充と収益構造の変革
- **パッケージ**：環境対応をリード、海外各エリア市場の成長投資を加速
- **印刷・情報**：市場環境に適合した収益事業へ改革推進

	2021年度 実績		2022年度 計画		増減率(%)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
色材・機能材	750	54	770	55	2.7	2.0
ポリマー・塗加工	707	36	740	48	4.6	34.5
パッケージ	736	18	760	25	3.2	37.9
印刷・情報	667	17	660	17	▲1.0	▲1.7
その他・調整	19	5	20	0	-	-
連結	2,880	130	2,950	145	2.4	11.5

(単位：億円)

2021年12月期 決算説明会

10

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次から、本年度の計画のご説明です。

これも全体感を見ていただきますと、売上高は 2,950 億の目標に対して営業利益 145 億です。一番右に増減率とありますが、特に営業利益の増減率は、ご覧のとおりポリマー・塗加工で 34.5%増、パッケージで 37.9%増といったん落ち込んだこの二つのセグメントの利益を回復させる、取り戻すことを中心に対応してまいります。それについては、後ほど個々に説明します。

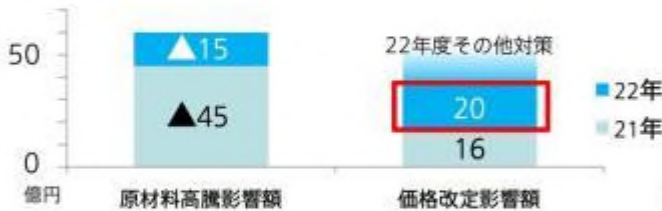
2022年度施策 原材料高騰への対策

原材料高騰は特にポリマー・塗加工、パッケージセグメントで影響大

更なる価格改定を迅速に進める

■ 営業利益への影響（通期 対前年）

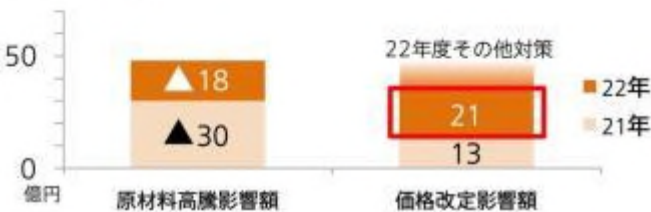
ポリマー・塗加工



2022年度価格改定効果額
（通期 対前年）

ポリマー・塗加工	+20億円
パッケージ	+21億円

パッケージ



■ 22年度その他対策

- ・ 拡販、売上伸長
- ・ 高機能製品へのシフト
- ・ 不採算品改善
- ・ 固定費抑制、SCM改善

ポリマー・塗加工	+11億円
パッケージ	+10億円

2021年12月期 決算説明会

11

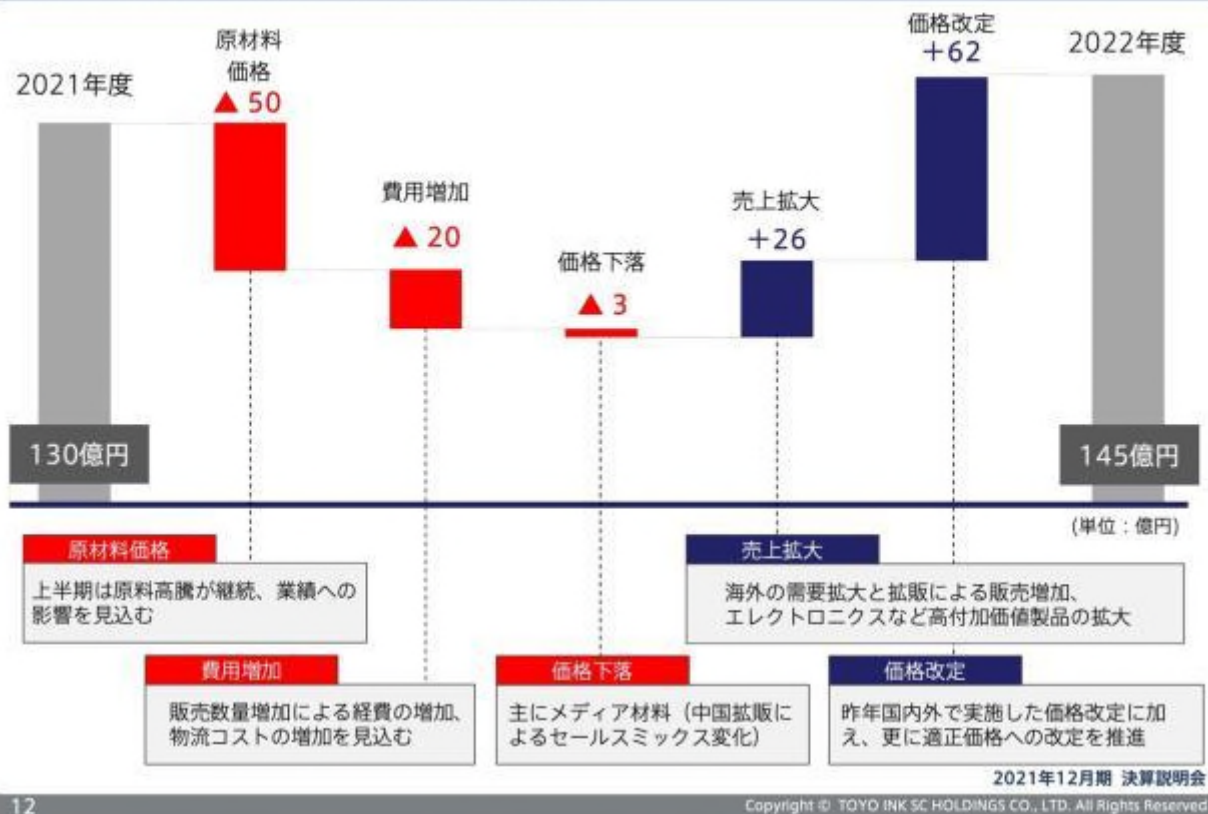
Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

個々に説明する前に、昨年大きく受けた原材料の影響を、二つのセグメントに関して簡単に対応状況をご説明します。

先ほど、連結全体で104億の利益悪化の要因を受けたと申しあげましたように、ポリマー・塗加工に関しては、この左側の薄いほうは昨年の45億の影響、それから、今年受けるであろう影響が15億と踏んでいます。それに対して、昨年度価格改定を実施した金額が、この右の棒グラフの薄いブルーの16億、今年見込んでいる部分が20億になります。

パッケージに関しても、昨年30億、今年18億を見込んでおりました、それに対して昨年13億、今年21億の価格改定を実施していきます。それでもまだ追いつかない部分については、この右下に書いておりますように、拡販や売上伸長、高機能製品へのシフト、不採算品目の改善あるいは固定費の抑制、サプライチェーンの改善といった対策を講じることで、ポリマー・塗加工でさらに11億、パッケージでさらに10億という利益改善を図り、この原料高騰に対応していこうと確認し合っており、進めております。

2022年度 営業利益の増減要因予想

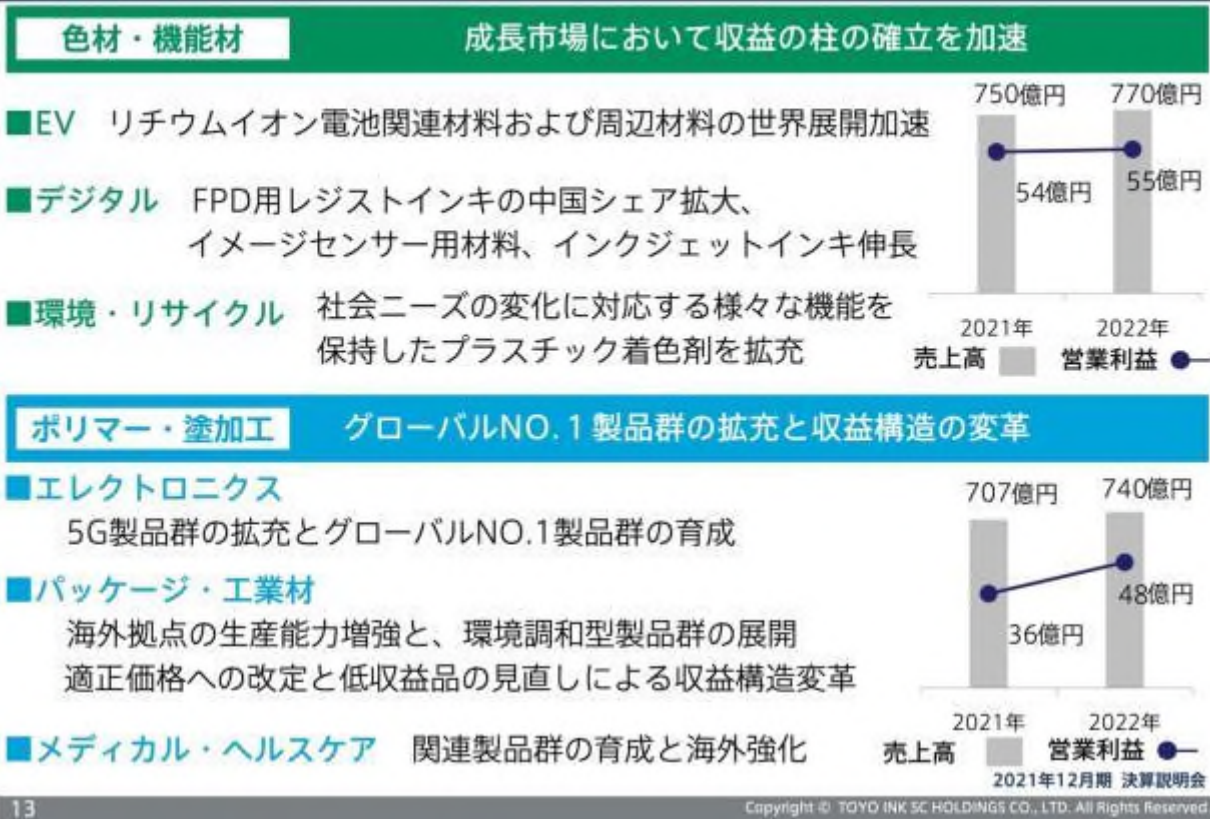


そういった二つの事業セグメントを含めた、連結全体での営業利益の増減要因予想がこのスライド 12 です。

今期は 50 億の原料価格高騰の影響を受けると踏んでいます。また、費用の増加については 20 億ということで、特に昨今エネルギーコスト、ガスや電力のコストが急速に上がってきております。これに対して、各製造所を中心にコストダウン施策を強めております。

それをやっても、まだ 20 億マイナス方向に働いてしまう状況にあります。これに対して、昨年から進めてきております海外での需要拡大の取り組みや、高付加価値製品の売上拡大をすることでプラス 26 億、また、適正価格への改定の努力を進めることでプラス 62 億です。ちなみに、このプラス 62 億は昨年値上げした分、例えば、昨年 10 月に価格改定が成立したのものについては、今年の 1 月から 9 月にもその効果が見られます。そういった効果も今年の価格改定効果としてカウントしております。

2022年度 各セグメントの施策



セグメント別に簡単にご説明してまいります。

まず色材・機能材は、先ほど申し上げましたとおり、これまで好調であったメディア関連材料の拡販、着色剤の高付加価値品のさらなる拡販、インクジェット用インキの生産拡大や用途拡大、さらには、将来大きな事業の柱とすべく力を入れているリチウムイオン電池用材料への投資と利益回収の早期化を図っていくことになります。

ポリマー・塗加工については、グローバル NO.1 製品群の拡充と収益構造の変革を掲げています。例えば先ほど申し上げましたスマートフォンの中に使われる導電接着シートの分野では NO.1 のシェアを持っています。また、今 5G の携帯が増えていますが、5G 対応の電磁波シールドでもスタンダードを取っていると捉えています。

粘着剤についても、アクリル系の粘着剤が中心ですが、ウレタン系の粘着剤をわれわれは非常に強みにしております。用途を拡大しております。そのほかパッケージ用の環境対応に対するノンソル接着剤も海外を中心に拡販が進んでおり、また、同じこの接着剤でのブランドを生かして、リチウムイオン電池のパッケージに使われる材料の拡販も進んでおります。

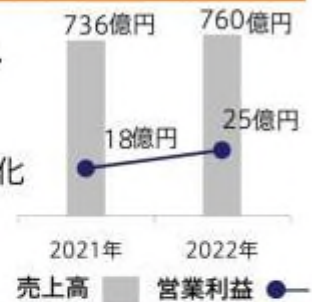
塗料については、昨年 8 月にご説明しました、アサヒビール様の生ジョッキ缶に使われた泡立ちの塗料、こういった次世代製品、NO.1 製品群をいくつか作っていかうということを、価格改定と同時に進めることによって、48 億の営業利益まで回復させていく計画です。

2022年度 各セグメントの施策

パッケージ

環境対応をリード、海外各エリア市場の成長投資を加速

- 環境対応製品の展開 水性化、バイオマス、紙化、リサイクル
- 海外成長市場シェア拡大 中国、インド、トルコ、東南アジア等への集中投資、収益実績化
- 原料高騰・供給不安の払拭 適正価格への改定とグローバルSCM体制拡充



印刷・情報

市場環境に適合した収益事業へ改革推進

- 環境対応製品の伸長加速 紙器、ラベル等の包装用途向け機能性インキ®を世界展開
- 抜本的構造改革 生産、物流、販売体制の徹底的なスリム化、DX活用を推進



※機能性インキ：UVインキ、金属インキ、スクリーンインキ

パッケージについては、これまで進めてきております環境対応ともう一つ、海外成長市場での拡大に注力します。後ほど設備投資のところでも申し上げますが、これまで中国、インド、トルコ、アジアでの投資を加速しております。こういったものを着実に成果につなげていく流れをつくっていきたいと思います。

印刷・情報については、これも昨年よりも収益を重視した事業運営を続け、環境対応製品の伸長を加速させます。先ほどのUVインキはここに含まれますが、例えば、LEDライトで硬化するといったさらに環境に対して良いもの、あるいはパッケージの分野で抵抗がなく使われるものの拡販をさらに進めてまいります。また、抜本的な構造改革は仕上げに向かってさらに進めていく状況です。

新たな時代に貢献する生活文化創造企業



次からは、今セグメント別で申し上げました中でも特に力を入れているところについて説明してまいります。

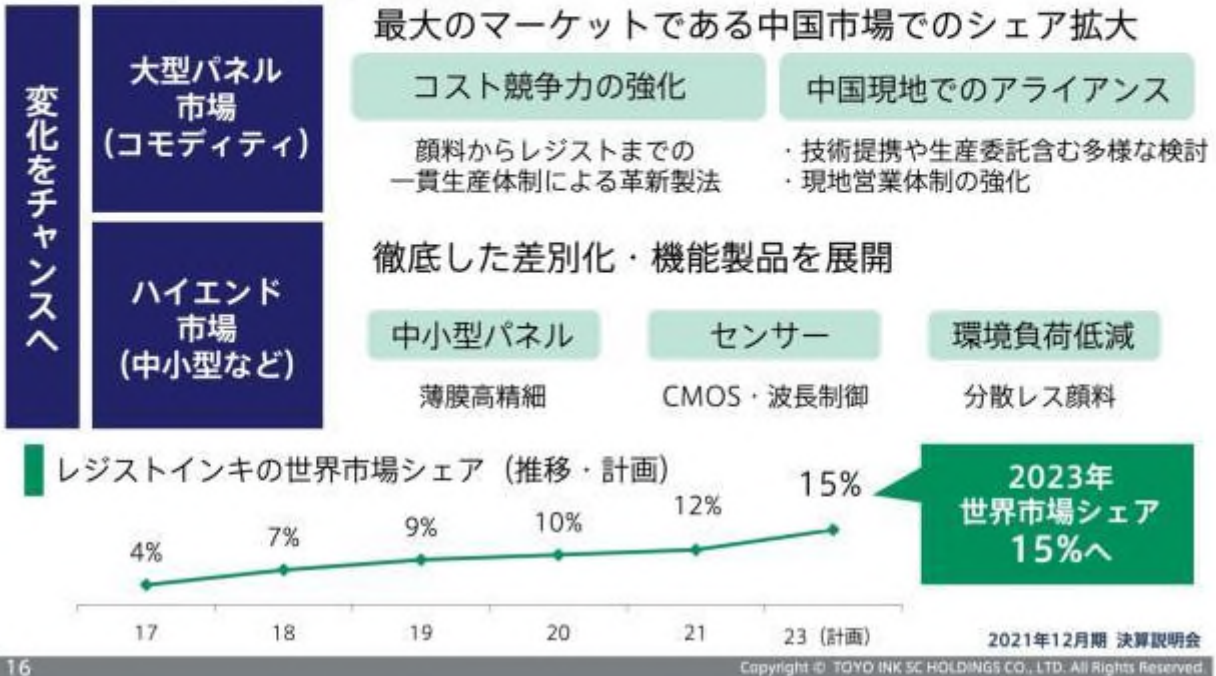
2年目に入った今の中計は、スライド15の図の中央にあります、重点開発領域の創出拡大、事業の収益力強化、この二つを支える持続的成長に向けた経営資源の価値向上、企業体質の変革、この三つの方針の下で進めております。

そして、新しい重点開発領域のターゲットとしては、環境、デジタル、健康医療の三つに対して新しい製品を投入していく活動を進めてきております。

中期経営計画SIC-II進捗 方針①：事業の収益力強化
 メディア材料 —液晶パネル市場の変化へ先手—

■ 液晶パネル市場の変化：

- テレビ用大型パネル市場は成熟、中小型パネル市場は拡大
- 中国シフトは加速・競争激化



まず、事業の収益力強化の一つのメディア材料の例です。

この事業は順調に進んでいるのですが、非常に変化の激しい市場です。ただし、まだこの市場についてはパネル面積という点でも世界的には伸びていくと踏んでいて、この市場で勝ち残るため、シェアを最大化するための最大のポイントはコスト競争力だと捉えています。

そのコスト競争力については、当社が顔料から持っている強みを生かした製造プロセスでの革新製法を確立し、順次それに転換中のほか、先ほど申しあげました構造改革の一環として実施した国内生産拠点の統廃合も、生産の効率化によるコスト競争力向上に寄与しています。また、もう一つのポイントとして、今後伸びていく中国市場にどう取り組んでいくかで、コスト競争力を強化したうえで販売、技術サービス拠点の拡充を進めていきます。また、中国の現地でのメーカーとのアライアンスを強化していくことも、どうかたちになるか近々発表できるかと思うのですが、進めたいと考えています。

メディア材料市場においては、すでに撤退を表明しているメーカーが出てきており、それによるシェア拡大も事実としてありますが、先ほど申しあげました、当社の強みを生かしたコスト競争力アップによってシェアを拡大していく戦略を進めていきます。

中期経営計画SIC-II進捗 方針①：事業の収益力強化
 粘着剤・接着剤 —グローバル接着剤メーカーへの挑戦—

TOYOINKSC
 For a Vibrant World

高付加価値シフト

環境調和や機能性を訴求した製品開発による収益構造変革

環境調和型製品群



高機能製品群



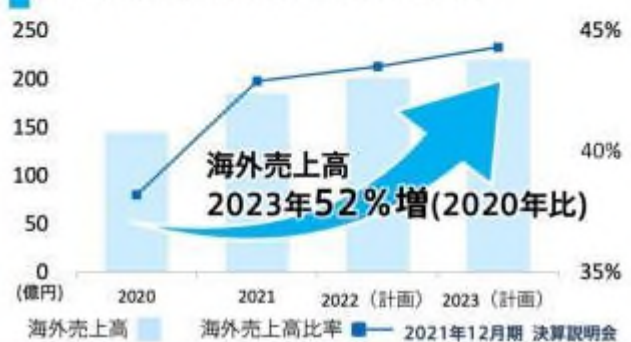
グローバル拡張

生産能力増強により
 エレクトロニクス、工業材、ヘルスケア分野を拡大

海外拠点の設備増強 (2022年稼働)



海外売上高/海外売上高比率 (計画)



17

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次が、ポリマー・塗加工です。

先ほど申し上げました、NO.1 製品をいくつか打ち上げていく分野が、環境調和型製品群と高機能製品群になります。環境調和型については、すでに生分解、無溶剤、薄膜化といったところへの提案を行ってきており、好評で引合いも受けております。

また、もう一つの成長エンジンはグローバル拡張です。先ほど、連結全体で約半分が海外の売上高になってきたと申し上げました。しかしポリマー・塗加工事業の現在の海外売上高比率が42%と連結全体より低くなっています。すなわち、当社の持っているグループの拠点インフラを最大限活用していけば、最小限の投資で事業拡大が見込めると考えております。グローバル拡張は既存の海外拠点に新しい生産設備を設置するかたちで進んでおり、海外売上高比率に関しては中計の2023年度、来年度が終わる時点では半分以上まで持っていく計画です。

中期経営計画SIC-II進捗 方針①：事業の収益力強化
着色剤、UVインキを伸長

着色剤：事業構造を転換

不採算拠点を整理、並行して機能性製品群へ注力

- フィリピン、フランスなどの不採算拠点の整理
- 国内容器用を拡販
- 機能性製品へ注力
 - ・ 太陽電池用（中国、インド急拡大）
 - ・ 環境対応製品事例（鮮度保持フィルム、生分解（農業資材））



UVインキの戦略的拡大

- 環境対応製品へシフト
 - ・ 独自樹脂開発によりバイオマス化実現
 - ・ LED-UV対応製品による省エネ寄与
- 日本、欧州のパッケージ市場拡販推進



2021年12月期 決算説明会

18

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

それから事業の収益力強化を中計の方針に掲げています。これは今年の年度の方針でもあります。この一つに、われわれは多くの品種を取り扱っていますが、品種の利益について収益マネジメントを強化して、約10億稼ぐ品種を2020年度、2年前の4品種から倍増、8品種まで増やしていこうという目標を掲げ、そこへ集中して資源を投入しています。

今年、原材料が結構厳しい中でも、新たにそういった10億を超える品種が増えてきておりまして、五つまで増えてきております。今年度、2022年度はそれを6つまで増やしていく計画です。

そういった非常に強化していきたい品種のひとつが、着色剤です。先ほど申し上げましたとおり、着色剤については負の遺産を整理した事業構造転換、さらに機能性の高い新しい製品群の投入が順調に進んでおります。特に、太陽電池用は中国とインドが大きな生産拠点になっており、そこでの拡大が順調に進んでいます。

UVインキについては、先ほど申し上げました、LED-UVという新しい製品、これは省エネに非常に寄与する製品で、こういったお客様もハッピーという提案を強化することで、オフセットのみならず、UVフレキソといった分野での拡大を今後進めてまいります。

中期経営計画SIC-II進捗 方針②：重点開発領域の創出と拡大
 グリーン・デジタル・健康をターゲットに開発・投資を推進



次は、先ほど申し上げました三つの領域、環境、デジタル、健康医療です。この領域に対して、われわれ全社が取り組んでいるいろいろな新製品の提案です。一番右側が売上目標値で、順調に今年、昨年と数値も進んでおります。

その中のいくつかを、次のところで一つ説明します。先ほど来、リチウムイオン電池用材料を会社の大きな収益の柱、売上拡大の柱にしていこうと、資源投入していると申し上げました。これは前回、前々回とお伝えしてきておりますので、その流れが順調に進んでいると捉えていただいて構わないと思います。

中期経営計画SIC-II進捗 方針②：重点開発領域の創出と拡大

TOYOINKSC
For a Vibrant World

LiB用材料 ―グローバル供給体制の拡充と独自技術で事業拡大―

■ 日中韓の車載用高容量LiBメーカーの拡大に世界4極体制で対応

- 4極生産体制：EV4大市場（欧米中日）でCNT分散体の現地安定供給に目途
- 独自技術：技術革新により性能と安全性を両立させた高性能CNT分散体

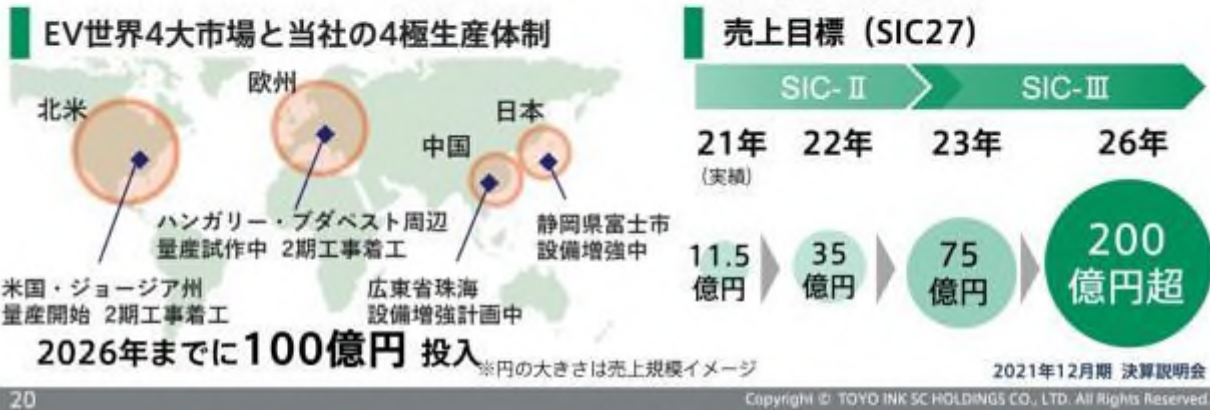
フォルクスワーゲン・
フォード用に供給開始

・韓国SK ON向けは計画通りに進捗、米国・欧州で供給開始

その他各社

・EV市場の急拡大に伴い車載用高容量LiBトップメーカー各社からの新規引き合い急増

次世代バッテリーへの採用に向け開発進捗中



アメリカのジョージア州、ハンガリー、中国の広州、それから日本と、この世界4極での生産拠点、この布石を着実に今打ってきています。

アメリカのジョージア州の拠点については、従来のライオケムという会社の中に設備を入れており、すでに量産が開始されています。欧州に対してはそのライオケムから、ヨーロッパのブダペストが立ち上がるまで持っていったり、日本から持っていったりしています。また、中国には最大の電池メーカーがあり、そういったところをにらんで、珠海東洋という拠点で設備増強を進めております。

今現在、アメリカ、ヨーロッパを中心にEV市場の急拡大、今後の投資が非常に積極化、活発化するのに伴いまして、かなり大きな新規の引合いが急増しております。こういった中で確実にわれわれとしても取り込みながら、この四つの拠点を持っていることを強みに事業を拡大してまいりたいと考えています。

E

- **サステナビリティ経営を推進**
 - ・ 2050年カーボンニュートラル達成、2030年SDGs達成への貢献を目的としたサステナビリティビジョン「TSV2050/2030」を策定
 - ・ TCFDへの賛同を表明

TOYO INK GROUP Sustainability Vision

2022年 現在 SIC27

2030年 TSV 2030

2050年 TSV 2050

2050年へのマイルストーン SDGs達成への貢献

カーボンニュートラル達成

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

S

- **挑戦する風土を醸成** ビジネスコンテストの開催
- **障がい者雇用の拡大** ダイバーシティを推進

G

- **ガバナンス強化** 監査等委員会設置会社へ移行
- **政策保有株式の削減**

2021年12月期 決算説明会

それから、中計の中で、利益と成長を支える経営基盤という意味で、こういった経営資源の価値向上を ESG という観点で説明しております。

Eについては、サステナビリティ経営を推進していくことで、先週の2月14日にホームページ上でも開示しましたとおり、「TSV2050/2030」を策定し、発表しました。こちらについては、2050年のカーボンニュートラルを目指しまして、そのマイルストーンとしてのTSV2030、もう一つ、それとSDGs達成のために企業グループが推進するための中間目標、そういう位置づけで2030をつくって対応しております。

また、昨今TCFDへの対応が、特にプライム市場のガバナンスコードの中でも求められております。われわれは、これについても全社の中で今対応しております、すでに賛同については2020年11月に表明しており、今年7月の統合報告書で取り組みを開示していく算段で進めております。

Sのところでは、ダイバーシティ、障がい者雇用の拡大、また、挑戦する風土です。われわれは125年続いわゆる老舗企業の一つではあるのですが、今回コロナ禍で時が一気に進み、未来が早くやってきた部分があると言われております。こういったところに新しい事業構造を、早急に改革を立て、変革していくためにも、挑戦する風土を醸成していきたいと、いろいろな仕掛け、例えば、社内でのビジネスコンテストみたいなものを行っており、今後も継続してまいります。

Gの部分のガバナンス強化では、今度の株主総会でも決議事項にありますように、監査等委員会設置会社への移行を進めていきます。また、政策保有株式の削減についても順次進めてきており、今後も継続してまいります。

研究開発体制の強化

■ 産学連携による技術基盤強化

- 東京工業大学に「東洋インキグループ 協働研究拠点」を設置

～環境・IT・バイオの先端研究を推進～

研究内容	1. 環境分野 次世代電池、エネルギーハーベスト、CO2活用等の研究開発 2. IT分野 次世代イメージセンサ・半導体への応用を目指した革新的材料に関する研究開発 3. バイオ分野 次世代医療技術に繋がる生体物質と化学材料との相互作用に関する研究開発
------	---

DX推進による基盤強化

営業	■ デジタル・マーケティング ■ 新ビジネスモデル構築	技術開発	■ マテリアルズ・インフォマティクス ■ 開発スピード高速化
生産	■ スマートファクトリー ■ IoTでプロセス変革	管理	■ RPA推進 ■ DX推進に向けた教育

2021年12月期 決算説明会

22

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

もう一つ、技術については研究開発体制、前回申し上げましたように、研究所の体制を大きく組み替えました。それに加えて、外部の技術も取り込んでいきたいと、1月に東京工業大学様と東洋インキグループ協働研究拠点を設置することで合意し進めております。特に三つ、環境、IT、バイオ、先ほどの重点開発領域にならった分野におきまして、研究開発を東工大と一緒に進めてまいります。

もう一つは、DXの推進です。DXについては手段として捉えて、それでわれわれの事業効率、事業プロセスを変えていこうという流れと、DXを捉えて新しいビジネスモデルをつかっていこうと、その両面で今進めております。

設備投資 成長を推進する設備投資を実行

設備投資	■ 2020年度	139億円 (実績)
	■ 2021年度	197億円 (実績)
	■ 2022年度	106億円 (予定)

SIC-II 3年間累計400億円 (計画)



主要な設備投資

色材・機能材	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国 (稼働) ■ ハンガリー (稼働) ■ 中国 (増強予定) (EV関連材料)
ポリマー・塗加工	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国・中国・インド・韓国 (粘着剤) (設備新設・増強・21~22年稼働予定) ■ 守山 (メディカル) (建設中・23年稼働予定)
パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 江門 (新工場 稼働) ■ トルコ (新工場 建設中・22年稼働予定) ■ インド (第2工場 稼働)

2021年12月期 決算説明会

23

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

次が、設備投資の概況です。

昨年度、2021年度は197億と、大きな投資をコロナ禍にも関わらず実行してきております。具体的には色材・機能材でのリチウムイオン電池の材料への投資、それから、先ほど申し上げましたポリマー・塗加工の成長エンジンである海外での投資、これはアメリカ中国、インド、韓国で今年にかけて新たに稼働がスタートする部分があります。

また、パッケージに関しては、中国の江門、トルコ、インドで、インドについては前倒しでさらに今後、投資をかけていこうと考えています。

株主還元 安定した配当政策

株主還元に関する基本方針(要約)

- 長期的な視点ですべてのステークホルダーの満足度を向上し続けることで、持続的な成長を実現していくことを目指す
- 長期にわたり安定的な経営基盤の確保に努めつつ、安定的な配当を継続
- 当中期経営計画期間（2021年～2023年）においては現状の配当金額（年90円）を下限とするが、業績によっては見直しを検討
- 安定配当を基本としながら、キャッシュ・フローや内部留保の状況等を総合的に勘案しつつ、自己株式の取得を機動的に行うなど株主還元を努める
- 内部留保については、基盤事業や成長が見込まれる事業分野への設備投資と、将来の利益向上に寄与できる研究開発に充てる

年間配当額※ 推移/予想

2021年度	2022年度(予想)
90円	90円



※グラフにおける年間配当額は2018年7月1日 株式併合実施換算後の数値

2021年12月期 決算説明会

24

Copyright © TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

最後になりますが、株主還元、安定した配当政策です。

あらためて、ここに基本方針として要約文を掲げました。この方針は、すでに発送している株主総会の招集通知の中にも記載しております。ただ申し上げておきたい点は、あくまでもキャッシュの用途、使い道を最優先するところは、事業成長を通じての企業価値最大化だと、私自身は考えています。今後も、それは変更ありません。

ここに示したのは、あくまでも株主還元に関する方針を明文化したということで、ここに書かれているとおりですが、三つ目にありますとおり、この中計期間中は年90円配当金額を下限としたいと、また、業績によっては見直しを検討していく、あるいは配当だけではなく自己株式の取得といったものも含めたトータルでの株主還元策を機動的に行うなどを進めてまいりたいと考えております。

以上、私からの説明は終わります。どうもありがとうございました。

以上

注意：決算説明会のプレゼンテーションを書き起こしていますが、一部当社によって編集されています。